

2025.4.10 Vol. 70

INFORMATION

25 年度のサケ会議は旭川で

北海道サケ ネットワーク

Newsletter

発 行 阿部周一

事務局 高橋壽一 札幌サケ協議会 〒006-0839

札幌市手稲区曙 9 条 1 丁目 10-25

Tel/Fax:011-681-4268 E-Mail: iavtaka@carrot.ocn.ne.ip

URL: http://salmon-network.org/

編 集 寺島一男

E-Mail: terashima@potato.ne.jp

雪解けが一挙に進んで北海道も漸く 本格的な春を迎えました。フキノトウが 現れ、スイセンが黄色い芽をすくすくと 伸ばしています。ほどなくキタコブシが 咲き、カタクリとエゾヤマザクラのほの かなピンクが目を奪いそうです。

諸般の事情でニュースレターを出す ことができませんでしたが、なんとか発

行にこぎ着けました。情 報不足が一番の痛手で す。どうぞ各地のホット なニュースや取り組みを お知らせ下さい。



サケネットワークではこれまで札幌 のほか旭川や帯広、標津でサケ会議を 開催し、地方でのサケをめぐる特有の 課題や資源保護など市民活動の現況に ついて研修を深め有意義な成果を上げ てまいりました。

25 年度の北海道サケ会議は、大雪と 石狩の自然を守る会の力強いご支援に より10月旭川で開催されることにな りました。このためサケネットワーク の総会は、この会議と切り離し4月に オンラインを経由した「書面会議」の 方式で行うことになりました

詳細は事務局から4月下旬を目処に 皆様にお知らせいたします。

25 年度総会の概要

- (1) 2024 年度の活動実績報告、会計収 支決算報告、監査報告
- (2) 会員の現状
- 今年の会場石狩川→
- (3) 2025 年度の活動計画案、 会計収支予算案
- (4) 役員の承認
- (5) その他

一昨年のサケ会議 → (標津サーモン科学館)

25 年度サケ会議の概要

- (1) テーマ 野生サケを考える ~現状と課題~<仮題>
- (2) 日 時 2025年10月25日(土曜日) $14:00\sim17:00$ 10月26日(日曜日) $9:00\sim11:30$
- (3) 会場 サケ会議:旭川市科学館(サイパ ル)1F学習・研修室 <旭川市宮前1条3丁目3-32> 見学会: ①嵐山展望台・石狩川 サケ産卵場所②忠別川浄水堰魚 道・忠別川サケ産卵場所
- (4) 参加費 懇親会・見学会は有料



石狩川でサケ稚魚放流

一第 42 回サケ出発式一 旭川の風物詩として市民に親しまれて いるサケ稚魚の放流が、3月31日(日曜 日) 旭橋下流左岸で行われました。

大雪と石狩の自然を守る会とあさひか わサケの会が、「サケ出発式」として毎年 この時期に行っているもので、42回目を 迎えた今年は約150人が参加しました。

放流に先立ち、守る会の代表からサケ 放流に至った経緯、回帰の現状、これから の課題などが話され、次いで旭川市長の メッセージが披露されました。また、サケ の生態を学ぶサケクイズや子どもたちの 元気なひと言も紹介されました。

放流は、市内の小学校・幼稚園・保育所・ 家庭など20箇所で、受精卵から育てられ てきた稚魚約3600匹が、参加した市民 一人一人の手によって行われました。

2025年(令和7年)3月31日(月曜日)

育てたサケ稚魚に「またね」

石狩川にサケの稚魚を放 流する「第42回サケ出発式」 が30日、旭川市の旭橋下流 で行われた。稚魚を育てて きた子どもたちや保護者ら 約150人が参加し、約3600 匹を川に放した。

市民団体「大雪と石狩の

かわサケの会」の共催。自 然環境の大切さを知っても らおうと1984年から続けて いる。稚魚は昨年12月から、 市内の幼稚園や保育園など 約20カ所で受精卵から育て られてきた。

この日は両会の代表を務

海や山とつながっている。 サケが行き来できる環境を 守るのが一番大切です」と あいさつ。参加者は容器に 移された5岁ほどの稚魚を、 数匹ずつ川へ放した。更科 海成ちゃん(4)は「またね」 と稚魚に手を振っていた。

北海道新聞

例年行うアイヌ民族の儀 式カムイノミ(神への祈り) は、日程が合わず取りやめ



